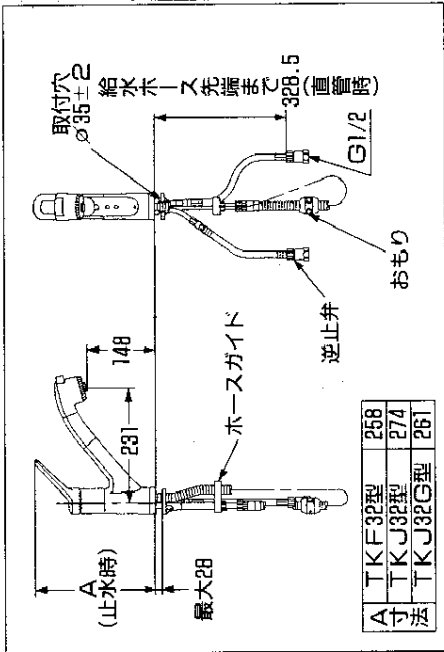


シングルレバー混合栓

取付説明書

完成図

TKF32型、TKJ32型、TKJ32G型



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

使用条件

1. 使用水圧
 - (1)瞬間型給湯機と組合せる場合
 - 給水圧力 { 最低必要水圧… (表参照)
 - 最高圧力…0.74MPa 17.5kg f /cm²
 - <設定条件>
 - レバーハンドルは全開
 - 吐水温度：38℃
 - 給湯配管長さ：5m
 - 給湯機が着火する下限の圧力とする。
 - 吐水は整流吐水
 - 水温の高い (25℃) 夏期に着火させることを想定。

- ・能力手動切替タイプの出湯温度は最高温度に設定。
- ・比例制御タイプの出湯温度：60℃

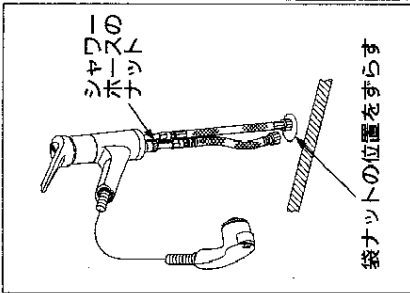
器具入口部における最低必要水圧 (MPa / kg f /cm²)

給湯機タイプと号数	最低必要水圧
能力手動切替タイプ	A + 0.44 (4.5)
TOTO カスタム制御方式	0.09 (0.9)
TOTO トリコン制御方式 (トリコン・コンタクト・アクティ)	0.098 (1.0)
TOTO ハイトリコン制御方式	0.07 (0.7)
TOTO コマンド	0.06 (0.6)
TOTO ハイコマンド	0.07 (0.7)
タイプ	0.06 (0.6)
12号	0.09 (0.9)
16号	0.07 (0.7)
20号	0.06 (0.6)
24号	0.07 (0.7)
32号	0.06 (0.6)
21号	0.07 (0.7)
24号	0.06 (0.6)
16号	0.09 (0.9)
24号	0.07 (0.7)
21号	0.06 (0.6)
24号	0.06 (0.6)

2. 給湯機タイプはできるだけ同圧になるようにしてください。
 3. 給湯機から給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
 4. 水勢調節や保守点検時のため、止水栓 (別途手配) を必ず取付けください。
- 注) 表中のAは給湯機の最低作動水圧を示します。
(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)
- ※能力手動切替タイプで水温が高く着火しにくい場合は、能力を小さく切替えると着火しやすくなります。
- (2)貯湯式給湯機と組合せる場合
- 給水・給湯圧力 { 最低必要水圧…0.05MPa 10.5kg f /cm²
- 最高圧力…0.74MPa 17.5kg f /cm²

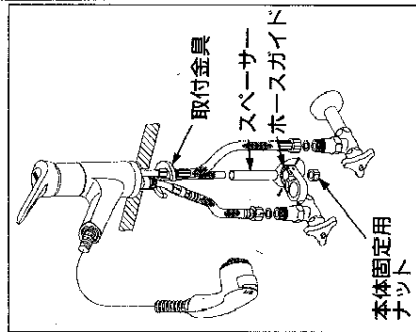
器具の取付け

1. 給水管内の清掃
 - 器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。
2. 混合栓本体の取付け
 - (1)混合栓本体をカウンタへの取付けの際、給水・給湯ホースの袋ナットおよびシャワーホース取付ナットを同じ位置にして、カウンタの穴へ差し込みます。入りません。ホースの袋ナットの位置を図のように上下に少しずらし、シャワーホースを十分に引出し図の位置にナットがくるようにして差し込んでください。



- (2)この時、ホースを必要以上の力で曲げて折らないよう、注意してください。
- 万が一折れた場合は、指でつまんで元どおりにしてください。

- (2)混合栓本体が正面を向くようにし、本体固定軸兼通水管に取付金具、スペーサー、ホースガイドの順に通して本体固定用ナットで仮固定してください。
- (3)逆止弁 (寒冷地用の場合はソケット) を止水栓に本固定し、給水・給湯ホースを逆止弁に接続してください。

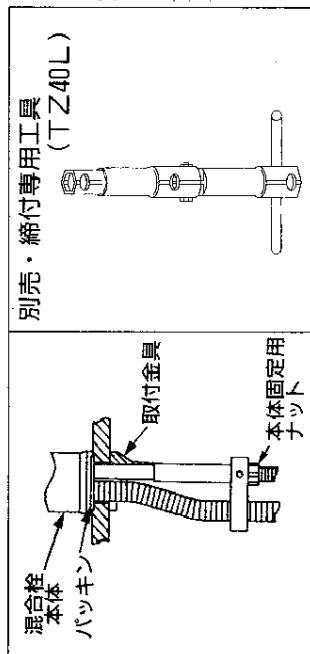


(4)混合栓本体を本固定してください。別売のナット締付専用工具(TZ40L)を利用して本体固定用ナットを、確実に締めてください。

(注)給水・給湯ホースのゆるみ防止のため給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。

※混合栓本体を固定する際、本体下のパッキンの取付位置をまちがわないように注意してください。

※混合栓本体を固定する際、取付穴が水栓本体の中心にくるように取付けてください。



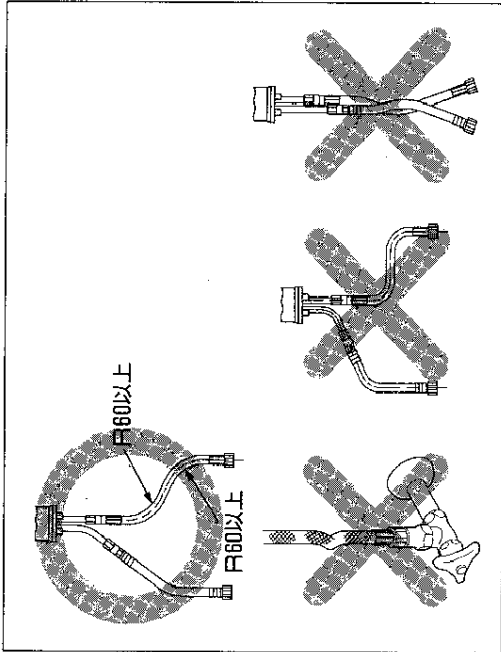
3. 給水・給湯ホースの施工上の注意点

- (1)給水・給湯ホースを逆に使用しないでください。各専用ホースとなっておりますので、逆接続すると給水ホースより黒い粉が吐出することがあります。
- (2)ホースがねじれられないように配管ください。ホースがねじれて配管されると、加圧した際ホースを取付けたナットのゆるみの原因となります。
- (3)ホースの折れに、ご注意ください。ホースを最小曲げ半径(60mm)より小さく曲げて使用しますと、ホースが折れることがあります。折れた部分で早期破壊を生じる可能性があります。施工時には、最小曲げ半径(60mm)より小さく曲げないように、ご注意ください。

(4)金具本体端面から極端に屈曲して、施工しないでください。

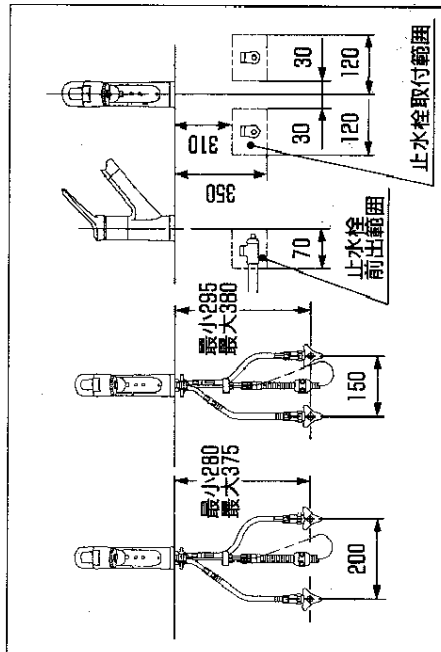
5. ホース同士の不要な接触は避けてください。

外部補強層の磨耗による外傷でホース性能の劣化の可能性があまりますので避けてください。



4. 給水・給湯ホースの施工について

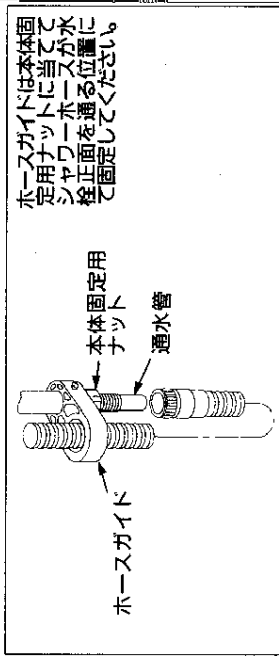
このホースの施工については、図に示す条件又は範囲内の止水栓位置にて、施工が可能です。



5. ホースの取付け

(一般用)

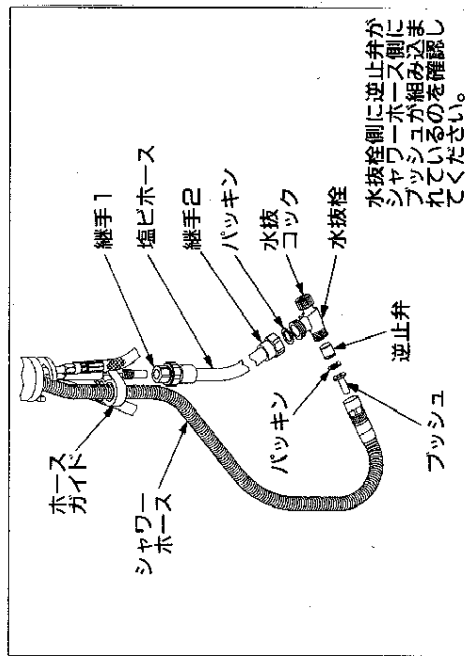
- (1)ハンドスプレーを本体にセットし、シャワーホースをホースガイドの穴に通してから通水管に接続してください。



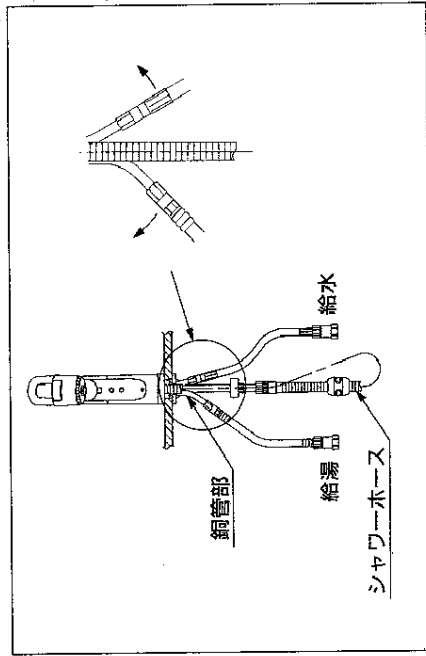
ホースガイドは本体固定用ナットに当てるシャワーホースが水栓正面を通る位置に固定してください。

(寒冷地用)

- (1)継手1を通水管に接続します。
- (2)継手2を水抜栓に接続します。
- (3)ハンドスプレーを本体にセットし、シャワーホースをホースガイドの穴に通してから水抜栓に接続してください。



(4)ホースを取付けた後、ハンドスプレーを引出し、シャワーホースにひっかかりなどがなく、スムーズに引出せられるか確認してください。
シャワーホースがスムーズに動かないときは、次の要領で調整してください。



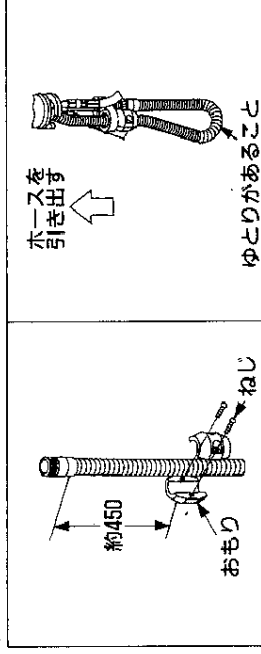
※給水・給湯の銅管部を左右に広げて、シャワーホースの通る空間を確保してください。

※シャワーホースがスムーズに動くのを確認してください。

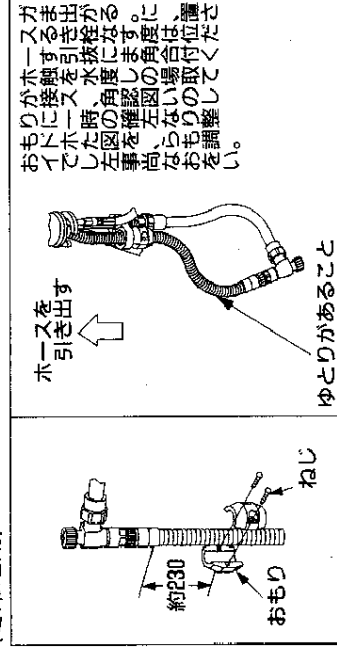
6. おもりの取付け

おもりは、ハンドスプレーの納まりをよくするため、引き出したときのストッパーの役目をします。図の位置にしっかりと取付け、スプレーをいっばいに引出した状態でホースにゆとりがないときは、おもりの位置を適当にずらしてください。

(一般用)



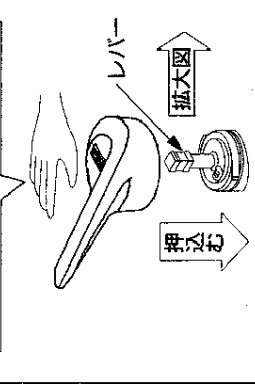
(寒冷地用)



おもりがホースに接触するときに、ホースの角度が左図の角度になり、おもりは左図の位置に調整してください。

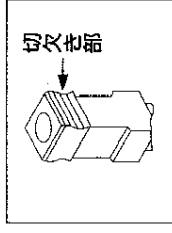
レバーハンドルの取付要領

カチッと音がするまで押し込む。



このレバーハンドルは、ワンタッチで取付けることができます。

ご注意



レバーハンドルとレバーの切欠きとの方向性に注意してください。

正面から見てレバーの切欠きは、両サイドにあります。万一方向をまちがえて取付けた時は、レバーハンドルを一度引抜いて方向を合わせて再度押込んでください。最後に、レバーハンドルが容易に抜けないことを点検してください。

使用上の注意

この商品は、ウオーターハンマ―低減機構を採用しております。

レバーハンドルを速く操作しようとする、抵抗感が発生し重く感じる場合がありますが故障ではありません。レバーハンドルがロックして、水が止まらなくなった場合は、一度全開にして、再度ゆっくり開めてください。

寒冷地の水抜方法

寒冷地用の場合は、器具の水を抜くため、ホース部に水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工

7. 水受けトレイの取付け

水受けトレイは万一ホースの伝い水がキャビネット内に落ちた場合の受け皿となります。
キャビネット床面のごみ、ほこりを取り除いた後、水受けトレイ底面の接着テープの紙をはがしてキャビネット床面に強く押しつけて固定してください。
できるだけ混合栓本体の真下に設置してください。

分解と点検

された場合は、水抜き操作とあわせて次の要領で水抜きをしておいてください。また、お客様にも水抜き方法をご指導ください。

レバーハンドル
ホースガイド
おもり
ハンドスプレー
水抜きコック

水抜き完了後は忘れずに水抜きコックを閉めてください。

- ①レバーハンドルを中央位置(掃除・水側の間)まで下げてください。
- ②ホースに取付られているおもりがホースガイドに接触するまで(左図のように)ハンドスプレーを引き出し水抜きコックを開いて水を抜いてください。
- ③ホースの水を抜きハンドスプレーを振って中の水を抜いてからシンクの底に置いてください。

お手入れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。

1. ふだんは柔らかい布でふき、ときどきミネシリン油やカーワックスなどをしみてこませた布でふくこと。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失うので付着しないよう十分注意すること。
2. 汚れがひどいときには、適量にうすめた食器用中性洗剤を含ませた布で、ふきとった後、水洗いすること。
3. クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含んだ洗剤やアイロンたわしなどは使用しないこと。
4. 酸性洗剤はめっきを曇らせますので使用しないこと。もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いすること。

故障とその点検箇所	点検項目
吐水量が少ない。	1. 2
水が止まらない。	3. 4. 5. 6
吐水温度不良。	1. 2
ハンドルがガタつく。	7

1. 止水栓が全開されているか

2. こみつきはないか

3. 傷・こみつきはないか

4. 方向はあっているか

5. 十分取付けられているか(手締め)

6. 外れていないか

7. カチツと音がするまで差込んであるか

レバーハンドル
ストッパー
カートリッジ押え
バルブ部
カートリッジ
バックリング
パネ

吐水ロキヤップ

別売 縮付専用工具 (TZ40L)

(寒冷地用)

水抜きコック

取付後、万一故障した際は、次の要領で分解および点検を行ってください。

ご注意

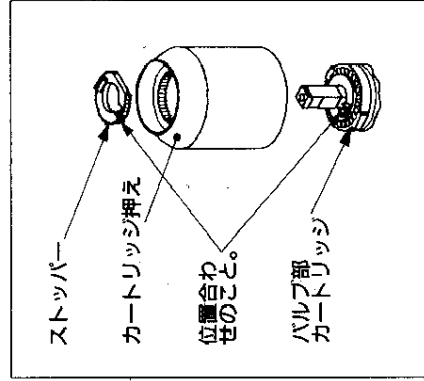
バルブ部カートリッジ内部は精密加工された特殊セラミックバルブを組立調整しておりますので、絶対に分解しないでください。

点検時の注意

カートリッジ押えは、手締めにて締め付け、工具は使用しないでください。

再セットされる際に、ストッパーを組込む時は、カートリッジ側凸部とストッパー側凹部を合わせて押込んでください。

その際カートリッジ押えの内側の歯とストッパーの外側の歯が合わない時は、カートリッジ押えを締め込む方向にて歯を合わせるように調整してください。



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。